The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	災害に関わるボランティアの変容と展開 : 規範の生成および変容のダイナミックスに関する研究
Author(s)	鈴木, 勇
Citation	大阪大学, 2004, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/44830
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

【12】

氏　　名	鈴木　勇（すずき　いさむ）
博士の専攻分野の名称	博　士（人間科学）
学位記番号	第　18331　号
学位授与年月日	平成16年3月25日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当 人間科学研究科人間科学専攻
学位論文名	**災害に関わるボランティアの変容と展開 －規範の生成および変容のダイナミックスに関する研究－**
論文審査委員	（主査） 教　授　中村　安秀 （副査） 教　授　釘原　直樹　　助教授　渥美　公秀

論文内容の要旨

本研究の目的は、規範の生成および変容のダイナミックスに注目して、災害に関わるボランティアの活動事例を考察し、効果的な救援活動のための実践的知見を得ることである。本研究で示したのは、災害ボランティアに関する規範が被災地において生成し、その後大域化し、平常時の活動の中で重複化するダイナミックスである。なお、本研究では規範を「意味への指示を伴う行為を、妥当性／非妥当性の形式によって、区別する操作」（大澤、1990）と定義し、阪神大震災以降の災害ボランティアの動態を、災害ボランティアに関する規範の動態として検討した。

第1章では、第2章以降の事例研究の前提として以下の2点を述べた。第1に、本研究の主題は、阪神大震災により変容した災害に関わるボランティアの検討であることを示した。第2に、本研究の理論的視座となる人間科学としてのグループ・ダイナミックスと規範の概念について述べた。

第2章では、第1に、日本における民間の災害救援活動の歴史を阪神大震災以前、阪神大震災直後、そして、阪神大震災以降の3つに分けて整理した。第2に、（特）日本災害救援ボランティアネットワークの設立から現在までの活動を整理し、代表的な災害ボランティア団体の活動経緯を概観した。その過程は規範の生成過程、大域化過程、多層化重複化過程の大きく3段階に分けることができた。ここで示す日本災害救援ボランティアネットワークの事例は、第3章から第5章にかけて述べる災害ボランティアの事例の全体像を示すものである。

第3章では、アメリカ合衆国におけるノースリッジ地震（1994）時に設立された災害ボランティア組織 Emergency Network Los Angeles（ENLA）の事例から、ボランティアによる災害時の救援活動について検討した。ここでは、災害によって崩壊した規範が、今一度生成される様態を考察した。

第4章では、2000年に設立された災害ボランティアの全国ネットワーク組織である全国災害救援ネットワーク（Jネット）の事例から、災害ボランティア組織のネットワーク化の動向について検討した。ここでは、規範が大域化する様態とその性質を検討した。

第5章では、（特）日本災害救援ボランティアネットワークが実施する防災まちづくりワークショップと地域通貨の活動から、災害ボランティアの日常時の活動について検討した。両者の意義は、幾重にも規範が多層的・重複的に絡み合っている日常生活の中に、災害ボランティアに関する規範を組み込むことの重要性に気づくことであった。

そして、第6章では、本研究の総括として、本研究で得られた知見を整理し、本研究の意義を明らかにするととも

に、今後の展望について述べた。

論文審査の結果の要旨

本論文は、阪神淡路大震災に関わるボランティアに関する規範の生成および変容のダイナミックスに注目して、災害に関わるボランティアのこれまでの歩みを考察し、展望をまとめたものである。日本災害救援ボランティアネットワークの設立から現在までの活動を整理することにより規範の生成および変容過程の全体像を示した。その上で、アメリカ合衆国・ノースリッジ地震時に設立された災害ボランティア組織 Emergency Network Los Angeles (ENLA)、全国ネットワーク組織である全国災害救援ネットワーク、防災まちづくりワークショップと地域通貨の活動といった事例をもとに、規範の多層性および重複性について検討した。

災害ボランティアを「規範」という概念をもって考察したこと、その理論を導入することにより、国や活動内容の違いを超えて、個々の事例をひとつの流れとして整理することができたこと、傍観者として観察するのではなく、研究者と実践者との協働的実践を目的とするグループダイナミックスの立場で記述した点など、申請者は本論文においてオリジナリティーの高い分析を論理的に展開した。

以上の理由から、本論文は博士（人間科学）の学位授与にふさわしいものと判定する。